

田代の風流【たしろのふりゅう】



開催場所	八女郡黒木町田代地区 八龍神社及び周辺
開催日	12月8日
指定	福岡県指定無形民俗文化財

【芸能の概要】

祭りの形態は一般に「神幸祭」として行われているものと同様で、田代では毎年12月6日に氏神のお下りがある。持ち回りで担当する「座元」の家に二泊し、12月8日に還御するが、その際の行列が「田代の風流」として知られている。先払を先頭に思い思いに趣向を凝らした18の役が滑稽な踊りを披露しながら御輿と共に神社へ向かう。御輿を納めた後、舞を奉納して祭りは終わる。

【芸能の特徴】

江戸時代、矢部川の水を巡り柳川、久留米両藩の間には争いが絶えなかった。柳川藩第7代藩主立花鑑通の尽力により田代一帯を柳川領とする交渉が成立した。そして1773（安永2）年に田代の氏神として八種雷（いかずち）の神（水の神）を祀る八龍神社を再建し、鑑通自ら行列を従えて風流を奉納したのが、田代の風流の始まりといわれる。藩公が祭りへ参加したことから、例祭日には大名行列と風流を奉納するようになった。以来、中断することなく続けられている。

【使用する祭具・道具など】

楽器は太鼓・鉦・笛が用いられ、太鼓奏者は頭に赫熊（しゃぐま）を付ける。木の皮の繊維で出来た毛を付ける毛槍、笠鉾、弓、鉄箱、獅子頭、旗などの道具が使われる。

・アクセス

堀川バス田代小学校前バス停から徒歩1分

・周辺の観光

学びの館（旧隈本邸と石橋忍月文学資料館）、グリーンピア八女（物産館）、山中溪谷公園、霊巖寺、日向神ダム、黒木大藤、南仙橋、奇岩群、お茶の里公園、日本一小さい石橋、津江神社の大樟、きのこ村キャンプ場、グリーンパル日向神峡

大藤祭り、黒木ふるさと日曜市、本田仁加、八女茶山唄日本一大会、祇園祭・花火大会、五條家御旗祭、木造聖観音立像提灯願、笠原祭り

・近くの特産品

巨峰、苺、八女茶

